



おさくら 劇場ピロシマ

- 演劇で人がつながる・まちづくり -

私たちは、おうちと学校、もしくはおうちと職場の間に少しだけ寄り道のできる広場をつくりました。この広場では、演劇をやってみたい、と思う人が集まり、お互いにコミュニケーションを取り合ったり、身体を動かしたり、みんなで創作することを楽しむことができます。

ピロシマ演劇クラブは、私たちの暮らす大きな街の中にある小さなちいさな広場ですが、定期的な開催を行い、ゆっくりと演劇を通じてお互いに関係を結んでいくことを目指しています。

演劇の手法を活かした コミュニケーションの場づくり

年間を通して一般参加を募る「演劇クラブ」を実施（全6回）

「演劇クラブ」では、コロナウイルスの感染拡大による活動自粛という、参加者全員の共通体験を元に、演劇の手法を用いて作品創作を行いました（創作詩「コロナのうた」）。創作の過程で参加者、自分自身を振り返り、他者の体験・思いを受け入れていきました。また、事業に継続して関わる障がいのある参加者を、サポーターとして演劇クラブの実施・運営に積極的に関わってもらうよう育成に取り組みました。

プロの演出家によるワークショップの開催（全2回）

演劇ワークショップでは、身体障害のある参加者の活動中の移動や読字などのサポートに参加する他メンバーが積極的に引き受け、参加者同士が共に活動する中で、互いに特性を自然と理解していける場を目指しました。ともに演劇を楽しむ場を講師、ファシリテーター、参加者という枠を越えて一緒に作り上げました。



広島市のまちづくりに どのような成果・効果があったか

- ・演劇には、コミュニケーションを通じて他者と関係を結び、共に創作を行う、という特徴がある。「演劇クラブ」「演劇ワークショップ」の中で参加者は、他者と時間や空間を共有する体験ができる。
- ・地域づくり・まちづくりの一つの手法として演劇を取り入れたいと思っている人を地域へ増やし、各現場で中心となっていける人材を集め育てていくことができる。
- ・多様な人々が集うことのできる地域活動のモデルケースになり得る事業であり、創作過程で参加者は互いに気持ちを高め合える。

～演劇クラブ参加者のアンケートより～

障害のある方と一緒にワークをしてみて、彼らの感情の表現は嘘がなくて真っ直ぐだなということや、その場を思い切り楽しんでいるなってことを感じました。その反面、自分はいろんなものを抑えて生きてきているので、そういうところを解放していきたいと思いました。いろんな立場の人達が、気軽に演劇に触れる機会がもっと増えるといいなと思います（50代・男性）

Webを利用した情報発信

劇団が運営するYouTubeチャンネルから定期的に、演劇クラブで実践している活動内容等を発信しています。他地域や団体、関心のある個人へ活動を広めています。

～ こんな動画が配信されています ～

- 1、他の人の手のひらを触って、体温を確かめ合うワーク。
 - ・自分と相手の温度の差を感じて、感覚を共有！
- 2、目を瞑ったまま電車のように連なり、一番後ろの人だけ目を開けて進みたい方向を前の人に伝えるワーク。
 - ・前の人から前の人へ、伝えたいことがうまく伝わると嬉しい！

他にもあるので是非ご覧ください！



おさくら劇場ピロシマYouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UChtsTh-2qifaT0kojQX8LSA>



演劇クラブの様子やシアターゲームを紹介しています。

当初の目的をどの程度達成できたか。 また、成功した点、失敗した点、工夫した点など

- ・演劇クラブでは、コロナウイルスの感染拡大による活動の自粛という、参加者全員の共通体験を元に、演劇の手法を用いて作品の創作を行った。創作の過程で参加者、自分自身を振り返り、他者の体験・思いを受け入れていくことができました。
 - ・身体障がいのある参加者の活動中の移動や読字などのサポートを、参加する他メンバーが積極的に引き受けました。参加者同士が共に活動する中で、互いの特性を自然と理解していくことができました。
 - ・身体への接触など、感染症対策により制限される活動もあり、もどかしさを感じる参加者もいました。
 - ・2020年12月広島県による新型コロナウイルス感染拡大防止集中対策期間の発表を受け、2021年1月に予定していた発表公演が次年度以降に延期されることとなりました。そのため、発表公演に代わり、同日程でオンラインによる演劇クラブを開催しました。
- 企画の中で、参加者や観客が直接対面により空間を共にすることや、互いにコミュニケーションをとることに重きを置いてきた私たちにとって、発表公演の延期は大変残念な出来事でしたが、オンラインによる演劇クラブは、感染予防対策に伴う職場や施設の方針により参加を見合わせていた方たちにも参加いただくことができ、好評を得ることができました。



活動成果と今後の課題・展望など

他者や地域とのつながりを望みながらも、感染症対策だけに限らない様々な事情から移動を制限されている方々とのどのような方法で繋がることのできるのか試行していく必要があります。

演劇クラブ、発表公演の継続、地域で事業に携わる演劇ファシリテーターを中心とした演劇ワークショップの開催を行う。Webコンテンツからの発信により、課題を抱える地域からの相談を受け付ける拠点となることを目指します。